

## オイコス恒例の餅つき会開催

～もち米は手作りの「オイコス米」で～

▼今年も張り切って

恒例のオイコス餅つき会を平成 22 年の暮れも押し詰まった 12 月 26 日（日）に行いました。

前日に「白、きね」の水洗い、かまど、七輪等の準備、17 臼分のもち米約 36kg の米とぎを済ませました。当日は風も無く穏やかな晴れ空の下、新川河畔の知人宅庭先で子どもをまじえて 20 人を超えるメンバーが揃い、朝から賑やかに始まりました。



今回の餅つき用米は、神久保（いものくぼ）に 3 分の 1 反程の田んぼを借りて、5 月 3 日に 10 人のメンバーで田植えを行い、育ててきた米で文字どおり手作りの「オイコス米」です。

米作りは乾いた田の土を耕す「田起こし」から「代掻き（しろかき）」（田に水を入れて土を細かく砕いて掻きならすこと）、「田植え」、「稲刈り」、「乾燥」と、かつては大変な重労働も機械化され作業のみで言えば随分楽な農作業となりました。（オイコスは全て手作業）



▲良く育ちますように（田植え）

オイコス恒例餅つき会も 4 回目となり、慣れた手順で作業は進められますが、米の蒸し時間や杵で最初にこねる状態が餅の良し悪しに微妙に影響し難しいものです。

搗き上がった餅は女性群の手で素早く、ひと口で食べられる大きさに丸められ「あんこ餅」「納豆餅」「大根おろし餅」と加工され、その場で夫々食べる味は最高です。

皆のお腹が十分満たされたところで、参加者持ち帰り用に約 2 升（2.8<sup>キロ</sup>）の餅を男性交替で搗き上げてゆくのですが、十分なこねを加えて打って行く作業は大変な重労働です。

しかし昔からの日本の暮れの風物詩の「餅つき」を我々の手で行う事で伝統行事を固持する喜びと、オイコスのチームワークが強くなることを確信して今後も続けて行きたいものです。

年末から旨いモチを食べ、新年には「おとそとモチ」が続いては体重増が心配です。

皆さんお疲れ様でした。（川瀬）

▼刈り取りも楽しく



▼天日干しのハザ架け旨く出来ました



▼子ども達もがんばります



## サポセン「こんにちは わ ふれあい祭り」に参加

平成 22 年 11 月 23 日（日）、市民活動サポートセンター祭りが開催されました。

イオン八千代緑が丘店での開催は今回で 3 回目となりました。参加した市民活動団体は 17 団体でした。アゼリア広場の舞台を撤去し、ローズ広場と両方の展示スペースが提供され各団体は十分な展示スペースを確保することが出来たので、オイコススタッフも大変力が入り、アゼリア広場にて展示と竹炭、竹酢液の販売を行いました。

小さい袋の竹炭や竹酢液ばかりではなく、太い飾り竹炭も良く売れ、総売上は 1 万円を超え、大商いとなりました。ブースを訪れるお客も多く、川の学校やホテルマップに質問が集中しました。チラシやパンフレットを持ちかえる人たちも多く見られ、オイコスの良い宣伝になった有意義で楽しい 1 日でした。（小原）



▲今回のポスターです

▼沢山売れました



## 昨年夏休みの「川の学校」後日談

▼川の学校



昨年夏休みに開校された「川の学校」は、二つの取材がありました。

一つは j:com（わいわいテレビ）の取材があり 8 月後半に放映されました。

もう一つは千葉県内にある高校の放送部の女子学生が放送コンクールに出展するために取材に来たものですが、その後、千葉県コンクールで優秀賞に選ばれ、今年の夏には全国大会に出場が決まったとの知らせを受けました。全国大会の結果が楽しみです、頑張ってください。

さらに「川の学校」の助成先のライオン㈱からテレビCMの中で「川の学校」の写真を放映したいとの申し出がありました。期待して見ていたら、番組最後のCMにちらりとほんの 1 秒程度確かに放映されました。また同社から「提供される試供品の包装ケースに同一の写真を添付したい。」との申し出がありました。我々の活動が多くの人たちの目に触れる機会が多くなることは喜ばしいことです。（小原）

## 今年度中のオイコスの活動予定

- ☆1 月 21 日（金）印旛沼環境基金助成事業成果発表会  
北総県民センター 9:30～
- ☆3 月 27 日（日）菜の花エコウォーキング
- ☆4 月 10 日（日）平成 22 年度総会  
JA 研修センター 13:00～

▼春の花輪川

